

制憲議会選挙の経過と結果

谷川昌幸

制憲議会選挙をカトマンズで見学した。ネパールの選挙については、本やネット情報などである程度知っていたが、現地で実際に見聞きすると、日本との違いに驚くことが少なくなかった。

(1)選挙の概要(12月15日現在)

- ・投票日：2013年11月19日
- ・議員定数：601（小選挙区制 240, 比例制 335, 内閣指名 26）
- ・政党数：選管登録 130(小選挙区制 120, 比例制 122)
- ・立候補者数：小選挙区制 6,126 人, 比例制 10,709 人
- ・投票率：小選挙区制 78.34%, 比例制 79.82%
- ・選挙実施要員：217,456 人
- ・選挙実施経費：48 億 4 千万ルピー(概算)
- ・選挙監視団：内外 49 組織, 30,667 人
- ・議席獲得政党数：小選挙区制 10, 比例制 30
- ・政党別獲得議席数： kongress 党 196, 統一共産党 175, マオイスト 80, 国民民主党ネパール 24, マデシ権利フォーラム 14, 国民民主党 13, 他 73



投票前日のキルティプル

(2)厳戒・監視下の選挙

この選挙には、バイディア派中心の 33 党連合が反対しており、11月11日バンダ(ゼネスト)、12-19日交通ストを宣言、実力による投票阻止を図った。バスやタクシーに火焰ビンが投入され、あちこちで爆発が起こった。私自身、18日夕方、キルティプルの滞在ホテルで2回、近くからの大きな爆発音を聞き、恐怖に身がすくむ思いであった。

こうした不穏な状況のため、選挙は厳重な警戒と監視の下で行われた。各政党の選挙集会や行進には武装警官が終始同行し、投票所では投票用紙記入台や投票箱の横に警官が小銃を構えて立ち警戒していた。

また、いたるところに選挙監視団が派遣されていた。私は政党の集会や行進に一観察者として参加していたにすぎないが、その私ですら、外からの——目立つので特に西洋人の——監視の視線を痛いほど感じ、卑屈な鬱屈した気分になるのを禁じえなかった。



上左：有権者登録の確認(パンガ)
上右：投票所の選挙監視団(キルティプル)
下左：投票所。左から投票箱・武装警官・
投票用紙記入台・投票用紙(赤)配布・投票す
る有権者(キルティプル)

(3)高投票率と大政党の勝利

それでも、投票は11月19日、大混乱もなく無事実施された。しかも、選挙妨害と政党不信のため選挙戦は低調であったにもかかわらず、驚くべきことに、投票率は80%に迫り、大勝したのは既成大政党の कांग्रेस党と統一共産党であった。マオイストは惨敗。女性当選者は小選挙区制ではわずか10人、マデシ系も大幅減少した。比例制当選者割当と内閣指名により多少は調整されるだろうが、被差別諸集団の後退は避けられそうにない。

(4)新憲法制定の可能性

कांग्रेस党と統一共産党が大勝した結果、両党を中心とする保守中道連合が成立すれば、新憲法の制定は難しくない。しかし、その場合、「包摂参加民主主義」の後退は避けられず、そうなれば、マオイストや被差別諸集団は再び反体制実力闘争に向かうであろう。ネパールにおいても、「中庸にして過甚ならず」は難しい政治課題である。

(『ネパールの視覚障害者を支える会 (NBSA) 会報』第37号, 2013年12月, pp.6-7)